

今日の説教のポイント<ルカによる福音書13章1~5節>

①理不尽な災いをどう考えればいいのか？ 災い、即、不幸？ 否！

昨年の大地震と原発事故の中で、多くの人が今も苦しんでいます。理不尽としか思えない災いを目にする時、「神様は本当にいるの？」と問いたくなります。この問題に対する聖書の答を考えます。まず考えておきたいことは、イエス様ご自身が、人の目には災いと見える道を選び取って歩まれ、その先に私たちには予想外の結果が待っていたということです（十字架の死と復活）。つまり、聖書は「災い、即、不幸」ではないことを教えてくれます。このことに、人生の考え方を大きく変えてくれる糸口があるのです。

②イエス様の答 … 神様に向かって方向転換しなさい

今日の箇所、イエス様は人災と天災と思える二つの災いに対して同じ答えをなさっています、「あなたがたも悔い改めなければ、皆同じように滅びる」(3、5節)。私たちは、「なぜこんな目に遭うのか。自分に悪い所はないのに」と考えます。それに対して、イエス様は、「いや、人は皆罪人である。悔い改めなさい」、と言われたのです。「罪人だ、悔い改めよ」と言われてもピンと来ませんね。実は、日本語の聖書で「罪」と訳された元のギリシア語は「的に矢を射損じる」という意味であり、「悔い改める」と訳された元のギリシア語の意味は「方向転換する」です。つまり「罪を悔い改める」とは、「これまでは神様という的に向いて生きて来なかったが、これからは方向転換して神様の方を向いて生きる」ということなのです。続く6節以下で、イエス様は、「神様は私たちが悔い改めるのを待って下さっている」という話をされています。

③死者は神の国に。生ける者は神の喜ばれる生き方を。

聖書は、神様が世界を造り、人にこの世の生を与え、死後には神の国を用意して下さっていることを語ります。私たちはこのことを信じて生きればよいのです！ つまり、生まれて死ぬまでの間で帳尻が合うかどうかではなく、この世で理不尽な苦しみに遭った人は彼の世で神様の恵みを受けると信じ、この世を生きる間はいつも、つまり、災いに思える時も幸いに思える時も、神様に聞き従って歩んで行けばよいのです！